

「Edaphologia」投稿規定

(1978年5月制定)

最終改正 2019年10月1日

1. 本紙は土壌動物に関する原著論文・短報・総説・抄録・学会記事等を掲載する。また、短い観察記録・意見紹介・ニュース・依頼などの雑文を収録するための欄「みみずの手帳」を設ける。原著と短報は、独自の新しい発見を記述するものであり、原稿は、その内容が他の刊行物にこれまで発表されていない、あるいは他誌に投稿中でないものに限ることとし、原著論文・短報・総説は、少なくとも2名の審査員による査読を受ける。投稿論文の扱う内容が本誌の趣旨と合致しない、あるいはフォーマットが投稿規程の指定するものと著しく異なる等と判断された場合、編集委員会の判断によって受付を行わずに返却されることがある。
 2. 投稿者は会員で、その年度の会費を納めた者に限る。ただし、共著者には会員外の者を含むことができる。招待執筆などの場合、編集委員会の承認により会員外の者が主著者となることも可能とする。
 3. 原則として、同じ筆頭著者の原稿を同一号に2編以上掲載することはできない。
 4. 著者が修正稿を編集委員会に送り戻す際には、各査読者のコメントそれぞれに、どの部分をどの様に修正したのか、具体的な回答を作成すること。査読者のコメントが、部分的あるいは完全に受け入れられない場合には、その理由や説明を回答の中で述べる。原稿の採否は編集委員会で決定する。
 5. 投稿はe-mailの添付ファイルによる電子投稿が望ましい。本文はdocもしくはdocx形式、表、および、図はPDF形式で作成し、合計5MB以下のファイルサイズにして、e-mailの添付ファイルとして投稿連絡表と一緒に編集幹事宛(jssz.edaphologia@gmail.com)に投稿する。図は、受理後に高解像度のものに変更するため、投稿時には、査読に必要な解像度まで圧縮したものを使用してよい。ただし、査読に高解像度の図が不可欠などの理由で合計5MBを超える場合、および、上記とは異なるファイル形式での投稿を希望する場合には、投稿に先立ち編集幹事にその旨を打診すること。
- 紙媒体で投稿する場合は、原稿は3部を編集幹事宛、簡易書留便で送付する。原稿3部のうち2部は複写されたものを用いる。

¹⁾日本土壌動物学会 HP (<http://soilzoology.jp/>) から電子版を入手することができる。

6. 原著論文・総説は和文または英文で、次の順序で記述する。

(1) 和文の場合-①表題 ②著者名 ③所属機関および住所 ④責任著者名²⁾およびメールアドレス（無い場合は未記入） ⑤英文アブストラクト（英文表題，ローマ字著者名，カッコ内に所属機関および住所³⁾，アブストラクト本文の順） ⑥英文キーワード（英語 6 語以内，内容上適切な英語以外の外国語は認める，アルファベット順） ⑦本文 ⑧摘要 ⑨和文キーワード（日本語 6 語以内，内容上適切な外国語は認める，アルファベット順） ⑩引用文献 ⑪ランニングタイトル（20 字以内）

(2) 英文の場合-①表題 ②著者名 ③所属機関および住所 ④責任著者名²⁾およびメールアドレス（無い場合は未記入） ⑤アブストラクト ⑥英文キーワード（英語 6 語以内，内容上適切な英語以外の外国語は認める，アルファベット順） ⑦本文 ⑧和文摘要（著者名，カッコ内に所属機関および住所³⁾，和文表題，摘要本文の順） ⑨和文キーワード（日本語 6 語以内，内容上適切な外国語は認める，アルファベット順） ⑩引用文献 ⑪ランニングタイトル（50 字以内）

²⁾責任著者は，論文の内容および問い合わせに対して責任を有する著者を指す。

³⁾ただし，著者が複数の場合は，著者名の右上，および，所属機関の左上に数字を付して区別すること。

7. 国名の英文表記は原則として英文で通常用いられているものを用いる（例えば，日本は Nippon ではなく Japan とする）。

8. 短報は、データ数が少ないなど原著論文とするには十分ではないが発展する可能性があるもの、重要な新分布の報告、あるいは、緊急な公表が必要なもの等を掲載するとし、原則 4 頁以内でその形式は前項 6 に準拠する。

9. 本文中での文献の引用は、丸括弧内に著者名と発行年をコンマで区切って示す。著者が2名の場合は著者名を「・」（和文）または「and」（英文）でつなぐ。3名以上の場合は第一著者名のあとに「ら」（和文）またはイタリックの「*et al.*」（英文）をつける。同一著者による同年発行の論文を複数引用する場合は、発行年のあとにa, b...の文字をつけて区別する。ひとつの括弧内に複数の論文を引用する場合はセミコロンで区切

り、発行年、第一著者名を基準にして並べる。年号は半角数字を用いること。引用文献は、原稿の末尾にまとめる。著者名のアルファベット順（共著で第1著者が同じである場合は第2著者のアルファベット順、以下同様）に、同じ著者の中では古い年次からとする。雑誌名は、原則として省略形を使用せずイタリックで示す。書き方は下記を参考とすること。

本文中での引用例

2論文以上併記する場合は公表年順とし、著者名が変わる場合は ; で区切る。

-本文が英語の場合

Fukuyama (2008) suggested that, Fukuyama and Ishii (2008) suggested that...,

Fukuyama *et al.* (2008) reported ...

-本文が英語で括弧内にくる場合

(Fukuyama, 2008), (Ishii, 2002a, b; Ishii and Kosaku, 2003; Fukuyama, 2007, 2008; Kosaku *et al.*, 2008), (Fukuyama, K., personal communication)

-本文が日本語で英語引用の場合

Fukuyama (2008a, b) は, Fukuyama and Ishii (2008) は, Fukuyama *et al.* (2008) は

-本文が日本語で日本語引用の場合

福山 (2008a, b) は, 福山・石井 (2008) は, 福山ら (2008) は

-本文が日本語で括弧内にくる場合

(福山, 2008) , (石井, 2003; Ishi, 2004; Fukuyama, 2007, 2008; 小作ら, 2008) , (福山研二, 私信)

引用文献

<和文の場合>

新島溪子, 1988. キンヤヤスデの大発生. 森林立地, 26: 25-32.

新島溪子・藤田桂治・松本久二, 1994. 汚泥堆肥類の施用に伴う林地の土壤動物の変化とその影響. *Edaphologia*, 52: 33-51.

青木淳一, 1973. 土壤動物学. 北隆館, 東京.

福山研二, 1999. 土壤動物の野外調査法, 「森林立地調査法—森の環境を測る—」(森林立地調査法編集委員会編), pp. 87-90. 博友社, 東京.

日本分類学連合, 2003. 第1回日本産生物種数調査. <http://ujssb.org/biospnum/search.php> (2018年1月29日閲覧).

<英文の場合>

Yachi, S., Ohtaka, A. and Kaneko, N., 1995. Community structure and seasonal changes in

- aquatic oligochaetes in an organic paddy field in Japan. *Edaphologia*, 90: 13–24.
- Aoki, J. and Harada, H., 1978. Investigations on soil fauna of the Bonin Islands. I. Soil arthropod communities. *Memoirs of the National Science Museum*, 11: 91–106 (in Japanese with English summary).
- Wallwork, J. A., 1976. The Distribution and Diversity of Soil Fauna. Academic Press, London.
- Tamura, H. and Zhao, L., 2000. Collembola of Yunnan, southwest China I. Onychiuridae, Hypogastruridae, Pseudachorutidae and Isotomidae. pp. 163–167, *In: Taxonomical Studies on the Soil Fauna of Yunnan Province in Southwest China* (eds. Aoki, J., Yin, W. and Imadaté, G.), Tokai University Press, Tokyo.
- Subías, L. S., 2018. Listado sistemático, sinonímico y biogeográfico de los Ácaros Oribátidos (Acariformes, Oribatida) del mundo (except fósils). [Original publishing in 2004. *Graellista*, 60: 3–305.] Online at http://escalera.bio.ucm.es/usuarios/bba/cont/docs/RO_1.pdf (Accessed 5 May 2018).

10. 原稿は A4 判の用紙に横書きでダブル・スペースに相当する行間をとり、周囲の余白を 2.5 cm 以上とし、左の余白に各行の通し番号を付すこと（通し番号は全ページの通し番号とする）。ただし、文章作成ソフトウェアの機能の問題などで、通し番号の挿入が困難な場合はその限りではない。原則として手書き原稿は受け付けない。

11. 英語を第一言語としない者は、英文の校閲を受けなければならない。

12. 本文中の動植物の和名はカタカナ、学名はイタリック体とし、初出の場合は著者名も書くこと。ただし、学名著者が複数の場合には最後の著者名を「&」で結び、「et」は用いないこと。本文中で用いられた学名の出展は、見出しならびにシノニムリスト中のものを除き、引用文献には含めない。見出し語の活字指定は編集委員会に一任する。

13. 原稿は 20 頁までは無料で掲載する。20 頁を超過した場合は、その超過頁分につき全額著者負担とする。編集委員会、評議員会の承認のある場合はその限りでない。

14. 特別な費用を必要とする図表（カラー印刷・特別製版・複雑な写植・折込み表など）については、その実費を著者負担とする。ただし、冊子出版時に配布される PDF 原稿のみ図をカラーとし、冊子の図は白黒とする場合は無料である。

15. 図は、すべて挿図 (Figure) として扱い図版 (Plate) にはしない。電子投稿の場合、受理後の入稿する図および表のファイル形式は、TIFF 形式、JPG 形式、GIF 形式、PICT 形式、BMP 形式、AI 形式、EPS 形式、ppt 形式、pptx 形式、xls 形式、xlsx 形式、および、PDF 形式が使用可能である。図は、図 1、図 2……、あるいは、Fig. 1、Fig. 2……とし、各図は 1 つずつ別紙に記し、トレース不要の完成されたものとする。図の説明は別紙にまとめて記述する。

紙媒体での投稿の場合、図の大きさは定形外郵便物の限度 (40 cm × 27 cm) 以内とする。なお、原図は原稿受理決定後に提出するものとし、投稿時にはコピーを提出すること。紙媒体での投稿の場合でも、原稿受理決定後に図を送付する際、十分な解像度⁴⁾の電子化したファイルで送付するのが望ましい。ただし、希望する場合、電子化したファイル以外の原図を送付する事も認める。原図の返却については編集幹事の指示に従うこと。

図の縮小率、本文中への挿入希望箇所 (行の通し番号で指定) は別紙にまとめて送付すること。ただし、希望通りの縮小、および、挿入位置にならない場合がある。

PDF 原稿のみ図をカラーとすることを希望する場合は、白黒印刷においても図の理解に不足がないように本文、図の説明、および、凡例を記述すること。

⁴⁾線画や 35 mm リバーサルフィルムなどの非デジタル素材をスキャナで読み込んで電子化する際の解像度はこれら以上とする：線画は 1200 dpi、白黒写真は 300 dpi、線画と白黒写真の組合せの場合は 800 dpi、カラー写真は 350 dpi、線画とカラー写真の組合せの場合は 600 dpi。

16. 表は、表 1、表 2……、あるいは、Table 1、Table 2……とし、各表は 1 つずつ別紙に書き、その体裁は編集委員会に一任する。受理後に入稿する表は、PDF 形式が最も推奨される。

17. 校正は初稿のみ著者校正を行い、再校以降は編集幹事に一任する。再校以降の原稿の訂正加筆は遠慮されたい。命名法的行為を含む受理済み原稿については、出版前に編集委員会が ZooBank への登録を行う。したがって、著者が自身の論文や命名的行為を ZooBank に登録する必要はない。付与された ZooBank LSID は、各論文の 1 ページ目に明記される。

18. 別刷は著者の希望に応じ、実費で 50 部単位で作成する。冊子の出版時に、PDF 原稿を連絡者へ無料で配布する。

19. 本誌に掲載されたすべての論文の著作権は日本土壌動物学会に所属する。図表の転載は編集委員長の許可を受けること。

20. 本規定の変更は編集委員会の議決によるものとする。